

岩手県公立学校

退職校長会だより



第204号

発行／岩手県公立学校退職校長会
代表 吉川 健次

事務局／〒020-0126 盛岡市安倍館町

印刷／富士屋印刷所 019(637)6391

年頭の御挨拶

岩手県教育委員会 教育長 佐藤 一 男

退職校長会会員の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より、本県の教育に對しまして多大な御理解と御支援をいただいておりますことに、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

迎えた2026年

は、午年にあたります。古来、午は生命力や躍動感を象徴し、大地を駆け抜ける姿は、「迅速さ」や「成功」を意味するとされてきました。本年が、本県教育界にとって力強く前に進み、実り多い年となることを心から願っております。

さて、東日本大震災津波の発災から、間もなく15年という大きな節目を迎えようとしています。歳月が流れ、本県の小・中学校の全ての子どもたちが震災を経験していないという状況が現実のものとなる中で、「いわての復興教育」の使命と意義が、一層重みを増しています。岩手の宝である子どもたちが、いかなる



時もたくましく生き抜き、郷土の復興・発展を支える力を身に付けられるよう、引き続き、就学前からの系統的・発展的な復興教育を全県で推進し、震災の教訓を未来に語り継いでいく所存です。

国においては、学習指導要領の改訂に向けた議論が中央教育審議会等で本格化しており、すでに「論点整理」がまとめられるなど、新しい時代に求められる資質・能力のあり方や、それを実現するための教育環境の整備について、今後の方向性が示されようとしています。本県も、こうした国の動きを的確に捉え、子どもたちの「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、そして「学びに向かう力、人間性等」がバランスよく育まれるよう、教育の質の一層の向上に努めてまいります。

本県では、令和6年に策定した「岩手県教育振興計画（2024～2028）」の中間年を迎えます。子どもたちの声を反映した本計画

訂に向けた議論が中央教育審議会等で本格化しており、すでに「論点整理」がまとめられるなど、新しい時代に求められる資質・能力のあり方や、それを実現するための教育環境の整備について、今後の方向性が示されようとしています。本県も、こうした国の動きを的確に捉え、子どもたちの「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、そして「学びに向かう力、人間性等」がバランスよく育まれるよう、教育の質の一層の向上に努めてまいります。

では、「学びと絆で夢と未来を拓き社会を創造する人づくり」を基本目標に掲げ、授業改善の推進と家庭学習の充実、人権を尊重する心の育成、不登校対策の推進など、重点施策を着実に推進しているところであります。引き続き、本計画の趣旨に御理解、御協力をお願い申し上げます。

複雑化・多様化する教育課題に對し、特色ある学校づくりを進めるためには、校長のリーダーシップと組織的な取組が不可欠です。さらに、ベテラン教員の豊かな経験と円熟した指導技術を次世代へ継承し、学校全体の指導力を高めていくことも急務となっております。教育現場のこうした取組を基盤に、「自分らしい生き方の実現に向けた新たな時代のいわての教育」の歩みを力強く前に進められるよう、子どもたちの学びの充実を図ってまいります。

貴会の先生方におかれましては、教育の最前線に立ち、学校経営を推進された豊かな経験と識見の下、今後とも本県教育界に對し、大所高所からの御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が岩手の教育界にとって明るく、希望に満ちた実り多い年となることを心から祈念申し上げますとともに、貴会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を心からお祈り申し上げます。年頭の御挨拶といたします。

新年の抱負 今後の10年を見据えて

会長 吉川 健次



新年おめでとう
ございます。

まず、昨年9月の結成60周年記念大会と第51回県研修・親睦会「盛岡大会」の開催には、県内各地から190名を超える会員が参集し、会を盛り上げていただき、大変ありがとうございました。

60周年記念誌の発刊や、盛岡市立仙北中学校合唱部と山岸小学校合唱クラブの心にしみる合唱、感謝状贈呈や第46代南部家当主南部利文氏による記念講演会などの記念式典、大宮さんさ踊りの祝舞による記念祝賀会（懇親会）、盛岡市先人記念館などの5施設の見学研修は、盛岡地区会を挙げての大会でした。改めて、全会員の皆様を初め、大会役員、盛岡地区会班長の皆様にも感謝申し上げます。

さて、周年行事を終えた今、今後の10年を遂行させるためにはどうあればよいかを考える時にあります。それは、少子化に伴い学校の統廃合による校長の減少、高齢会員のご逝去等の増加により、会員の減少に

伴い会費も減少し、予算不足が現実化していることとあります。

そこで、令和8年度は、本部や各地区会の活動の様子を出来るだけ早くお伝えするため、岩手県公立学校退職校長会のホームページを開設したいと考えています。そのため、デジタル担当者を会全体のまとめをしている総務部に位置付け、それに伴い、現在4回発行している「退職校長会だより」を3回に変更することを考えています。

「研修、親睦、社会貢献」を合言葉に70年80年と退職校長会を継続して行くために、「退職校長会だより」の発行回数を減らしたり、「県研修・親睦会」「ブロック研修」の在り方を検討したり、理事会や常任理事会の会議や事務局長会議の会場を見直したりし、支出を抑制することにより「年会費」を変更しないで、事業を遂行して参りたいと思います。

会員の皆様には、これからも岩手県公立学校退職校長会が発展しますように、ご助力をお願いいたします。

第51回東北地区退職校長会協議会 「山形大会」参加報告

報告。

標記大会が、去る10月9日（木）10日（金）の二日間、山形市の山形国際ホテルで約80名が集まり開催された。協議題「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうかあればよいか」のもと、東北各県の情報を交流し合い、持続可能な活動の在り方を確認した。本県からは、吉川会長、篠田研修部長、館澤事務局長と熊谷総務部長の4名が参加した。

I 理事会

開催県である山形県の鈴木弘康会長を議長に、役員人事、三県からの提出案件、次年度の開催県及び協議題について話し合った。この中で、青森県の今年度末での脱退報告があった。

II 大会

《講話》
全連退常任理事の三上裕三氏からご講話を伺った。

《話題提供》
秋田県と青森県の二県からの発表。秋田県からは、「自然の中で育つ子どもたち」という発表題で、子どもの健やかな心を育むには自然体験が大切との信念のもと、20年以上に亘って実践してきた自然体験活動の

報告。青森県からは、「教育の日」の取組についての発表。昨年度の大会で、小・中・高校生七名のパネルディスカッションが好評だったので、今後も子どもたちの未来を切り拓いていく姿を支援し、共に歩んでいきたいという内容の報告。

《理事会報告》

令和7・8年度の役員人事や、令和8年度大会の開催県は秋田県で一日開催になること等が報告された。

なお、青森県が退会することを受けて「東北地区退職校長会協議会会則」の改正が必要となり、今後各県会長と検討するという話も報告された。

III 懇親親睦会

約60名が参加して開催。山形を代表する銘酒14銘柄の提供もあり、和やかで盛り上がった会となった。

所感

青森県退職校長会が今年度末で退会するという残念なニュースに驚く。開催県の鈴木弘康会長から「協議会の半世紀にわたる歴史は重く、次の世代につないでいくことが私たちの使命だ」との言葉が心に響いた。

（総務部長 熊谷幸一）

令和7年度第53回
現職・退職両校長会教育懇談会・懇親会
 期日 令和7年12月10日(水) 会場 サンセール盛岡

本年度の現職・退職校長会教育懇談会は、県小学校長会20名、県中学校長会20名、退職校長会24名の計64名が参加のもと開催された。その後の懇親会も50名もの多くの方々の参加を得て、盛大に開催された。今年度は、盛岡地区以外の地区からの参加もあり、本会の一層の充実が図られた。

挨拶(要旨)

《退職校長会吉川会長》

一昨年度までは、現職校長より話題提供をしていただいたが、退職後の生活設計の一助になることを願い、昨年度は、退職校長会会員から退職後の働き方、生き方、過ごし方を現職の皆さんへお伝えした。今年度もお二人の退職校長に話題提供をお願いした。現職の校長先生方には、退職後の生活の参考にしていただければありがたい。

《県中学校長会会長照井英輝氏》

日頃のご指導ご支援に感謝申し上げますとともに、60周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。現在学校は、不登校をはじめ多くの課題が山積しております。また、最近では『熊』の出没による危機管理が問われ、さらに先日の地震後の『後発地震注意情報』により、対応に苦心しています。退職後のイメージが全く持てない中、今日のお話が今後のヒントになるのではないかと期待しております。

《話題提供(進行 熊谷幸一総務部長)》

テーマ「今できることを できる限り」

(元盛岡市立本宮小学校長)

盛岡市立城北小学校教諭 加藤 良氏
 校長時代は、台風直撃被害から学校を再開させるにあたっての苦労や児童の悲しい出来事への対応、コロナ禍での対応と学校運営など大変な出来事があったが、その時の経験が大きな財産となった。

退職後は、自分の力を生かせるところで働きたいと考えていたので自分一人だけだったが教諭のフルタイムをお願いした。理科専科となり、赴任後最初に取り組んだことは理科室の整備であった。

17年ぶりに行う理科の指導では、学習内容や実験器具、教科書の内容、デジタル教材の活用など大きく変化していた。

授業するに当たっては、理科に興味関心を持ってもらおうと、自分で取ってきた生き物や標本を、理科室に展示したりできたり、触れられるなど、子どもたちが出来るだけ本物に触れる機会を作っている。

これらのことが出来るためには、やはり健康管理が大切である。



「今できることを できる限り」と題してお話される加藤良氏

り、規則正しい日常生活をおくることなどいろいろと気を付けている。そして、ここまで続けてこれたのは、健康とともに、先ずは自分が楽しむことや子どもたちと関わることを大切にしてきたことが要因だと思っている。今後、も理科専科として続けていきたい。

来年度退職後、現場に入ろうと考えておられる方は、自分の守備範囲でできることをやればよいのではないかと考える。

「全ては子どものために実践しているというお話を伺い、先生の子どもを思う授業、じっくりと頭が下がった。」

《話題提供2》

テーマ「高齢者の一日の暮らし」

退職校長会研修部長 篠田宜道氏

遊びの話、ひいては自分の居場所探しをどのようにしてたかという話をします。

退職後には3つのステップがあり、第1の段階が「ホップ」で、第2の仕事をする段階。第2の段階は「ステップ」で主役が自分であること。第3の段階が「ジャンプ」であり、どの人もやってくる介護の世界があること。

今日は、このうち第2の段階をいかにうまくソフトランディングをするかというお話です。

退職後は、未知の場所には何かがあると憧れ、全国を旅したいと考えたが、ただ旅をするのではなく、趣味でもある登山をし、全国47都道府県の最高峰に登ろうと取り組んだ。日本の山は、ただ歩けば着きます。およそ、10年ぐらいで達成できました。

「登山に纏るお話を伺い、併せてその時々山の写真を見せていただいたとき、その美しさに魅入ってしまった。」

先輩の教えて、ボケ防止のため旅の記録を取るようになり、この中で、野山のよさを学びました。

今は、仲間と様々な活動を行っています。いろいろな仲間があり、山登りやハイキング、グライダー、日帰り旅行を楽しんでいます。今振り返ると、好きなことをやってみる、そして、仲間がいる、それが居場所なのだと思います。この仲間との語り合いは何よりも前向きになれる。仲間は私の宝物です。

みなさんには、家から出て人と関わることを意識してほしいと願っています。

「人と人とのかわりの大切さを優しい語り口で私たちの心に届けていただきました。」

お二人のお話は、現職のみならず、退職した者にとっても大変心に響くものであった。

懇親会

懇談会終了後は、

現職校長、退職校長が同じテーブルを囲み懇親会が行われた。どのテーブルも話は尽きることなく、会場のあちらこちらで笑い声や笑顔がいつぱいの楽しいひと時を過ごした。



「仲間の大切さ」をお話する篠田宜道氏



和やかに進められた懇親会

令和7年度岩手県公立学校退職校長会

結成60周年記念大会 第51回県研修・親睦会「盛岡大会」

大会テーマ「明日に向かって豊かに生きる、先人をたずねて」



QRコードから大会記録写真を閲覧できます。

昭和40年に結成し、今年度記念すべき60周年の佳節を迎えた第51回県研修・親睦会「盛岡大会」が、9月18日・19日の両日、会員185人が参加し、盛岡つなぎ温泉「ホテル紫苑」で開催されました。

これまでの歩みを顧み、本会の活動に尽力された先達とご支援を賜った関係各位に敬意と感謝の意を表し、あわせて今後の更なる発展・充実のため鋭意努力することを誓い合う大会となりました。

本大会開催に合わせ、60周年記念誌を刊行し、県内全会員及び関係機関各位に配付いたしました。

開会行事（記念式典）

開会行事（記念式典）は、岩手県教育委員会教育局長松村達様（教育長代理）、盛岡市長内館茂様、同市教育長多田英史様をはじめ、9名のご来賓をお迎えして行われました。

挨拶（要旨） 吉川健次実行委員長

本大会は、昭和40年に結成し、今年で60年目に当たる記念すべき大会であり、年1回の貴重な研修・親睦



挨拶する吉川健次実行委員長



祝辞を述べる松村達様



祝辞を述べる内館茂様

会と併せた大会です。本会の合言葉である「研修・親睦・社会貢献」とおして会員の「生きがい」の創生を願って毎年開催して参りました。これまで多大なご支援を賜りました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

感謝状及び記念品贈呈

長年にわたり本会の発展にご功績のあった顧問佐瀬壽朗様（元会長）同木村幸治様（前会長）、また今期退任された千葉勝也様（前気仙地区会長）、松村仁様（前気仙地区会事務局長）の4名の皆様に感謝状と記念品が贈呈され、代表して千葉勝也様より謝辞が述べられました。

祝辞（要旨）

県教育委員会教育局長 松村達様

本県の教育は、どのような時代にあっても、岩手の子供たち一人一人の夢の実現を支え、未来の創り手として育んでいくことに変わりはありません。先生方が指導力を高め、自信と誇りをもって教師という仕事の魅力を実感できるようにこれからもご尽力を賜りたいと存じます。

盛岡市長 内館茂様

いま教育は変革の時を迎えています。このような中、先人によって培われた伝統・文化を学び新たな時代に求められる資質を育成することは、本市の先人教育とも共通し、大変意義深いと期待しております。

研修会

1 鎮魂の歌

当日のご来賓で会員の太田代政男様の指揮、同じく会員の佐々木裕様のピアノ伴奏で思いを一つにしました。太田代様からは、当時、陸前高田市の3校統合の新校歌練習会直前に起こった大震災の様子やご尽力くださった故伊藤教育長様のお姿等が語られました。

2 児童・生徒の発表

盛岡市立仙北中学校合唱部



令和7年度第77回全日本合唱コンクール県大会金賞・同東北支部大会銀賞、同じく第92回NHK全国音楽コンクール県大会銀賞の実力を優しい歌声で届けてくれました。

盛岡市立山岸小学校合唱クラブ



令和7年度第77回全日本合唱コンクール県大会金賞、同じく第92回NHK全国音楽コンクール県大会金賞・同東北ブロック銀賞の実力を素敵な笑顔で伝えてくれました。

3 記念講演会(要旨)

演題 「藩校に学ぶ人づくりの精神」
講師 第46代南部家当主
南部利文様

(もりおか歴史文化館名誉館長)



南部氏は鎌倉幕府草創期に清和源氏加賀美遠光の第三子・光行を祖として成立した武士団

で、甲斐国南部郷、現在の山梨県南巨摩郡南部町を拠点としたため「南部」を名乗るようになった一族です。家伝では鎌倉時代に軍功によって陸奥国糠部郡、現在の岩手県北部から青森県東部一帯を治めることを認められ、一戸く九戸の地に一族が広まったといわれています。このうちの三戸南部家が、のちに盛岡城を築き盛岡藩主となり、いわゆる「盛岡南部家」が成立します。

画像の人物は26代南部家当主、初代盛岡藩主となる南部信直です。信直が生きた時代はまさに戦国乱世。

南部信直

天正10年に豊臣秀吉が明智光秀を討ち、織田信長の後継者として「天下統一」に向けた動きを加速させていきます。南部信直が家督を継いだの



は何とこの天正10年。家督を継いですぐにこの大きな問題に直面することになります。また、三戸南部家は依然周囲に勢力を争う大名や領主たちがおり、家督継承直後の不安定な立場の中で、内外の反対勢力と対抗していくためにも、信直は積極的に「天下人」である豊臣秀吉との結びつきを選択します。

南部家は徳川家との関係構築にも力を入れており、徳川政権下でも円滑な滑り出しを見せます。盛岡藩は、北は現在の青森県下北半島から、南は岩手県北上市まで、一部秋田県の鹿角市を含んだ地域になります。江戸時代を通してこの領域は変わることなく、盛岡南部家が治めました。江戸時代、盛岡藩を治めた南部家の当主は16人。豊臣秀吉との間を前田利家を取り次いだ関係で27代・2代盛岡藩主南部利直は前田利家を烏帽子親として元服し、「利」の字を拝領したといえます。

8代藩主利視の時に、改めて前田家と南部家の関係が見直され、正式に「利」の字の使用許可をもらい、9代藩主利雄は前田家の姫を正室として迎えています。盛岡南部家の当主の名に「利」の字が多いのはこれが理由となっています。江戸時代を通じて後継者問題、災害、飢饉、財政問題など様々な危機がありました。幕末、そして明治へと激動の時代を駆け抜けました。

(中略)

それでは盛岡藩の教育体制はどのようなものだったのでしょうか。

盛岡藩には、古くから藩士教育のための稽古場が設けられていました。創立年代ははっきりとはしていませんが、5代藩主行信が内丸にあった藩主の居邸であった「御新丸」に「御稽古場」を創設したのが始まりだと伝わっています。ただ、御新丸は基本的に藩主の世子の邸宅であり、内丸にあることから武芸稽古に通うものに対して身分の制限がありました。そこで8代藩主利視の時に、八幡宮御旅所の社前にあった「御用屋敷」に御稽古場を移転します。町人街であったことから、足軽や陪臣など身分に制限なく通うことができ、この時代に盛岡藩内の武芸は盛況を究め、兵学、剣術、槍術、弓術、砲術、長刀、柔術など22の流派を数えたといわれています。

13代藩主利済の時に藩校に「明義堂」という正式な名が付けられます。明義には「義、すなわち道理を明らかにする」という意味があり、御稽古場としてあくまで「武」が主流だったこれまでとは違い、文武両道を目的とする明確な方針を利済は打ち出していきます。利済は朱子学を重んじ、また武芸においては実践に備え、家格や禄高など身分ではなく実力本位、能力や成果を重視して評価や処遇を決めるよう指示を出しています。

藩校「明義堂」は15代藩主利剛の

時代に「作人館」と名前を改めますが、最終的に文学教場の「修文所」、武術教場の「昭武所」、そして医学所が置かれ、藩校「作人館」は文・武・医の三科から成る総合学園としてより教育に力を入れていくのでした。

親睦会(記念祝賀会)

盛岡教育事務所長丸橋友之様をはじめ6名のご来賓をお迎えし、総勢125人が参加、旧交を深め、互いの絆を確かめる有意義な会となりました。



大宮さんぞ保存会の祝舞

閉会行事(2日目)

二戸地区区会長清川泰様から次期開催地挨拶があり、来年9月の再会を誓い合いました。

見学研修(2日目)

2日目は、市内5施設に分かれたの自主研修でした。約70人の参加者はそれぞれの施設で学芸員の解説に耳を傾け、学びを深めました。



盛岡市先人記念館で記念写真

わたしの3・11

紫波地区会

越 恵理子



あの日、小高い山の上から、一面海と化した陸前高田市の町を見おろしまし

た。さらに、その後の引き波で多くの家屋や人までも海へと引きずり込んでいった津波を、どうすることもできず見おろしてしまいました。まさに「絶望」を感じ取った瞬間で、今思えば、この町は……どうなるのだろうと。

私が陸前高田市立気仙中学校に赴任したのは、平成21年4月のことでした。東日本大震災までの間に津波注意報による避難を2回（いずれも気仙小学校へ）、チリ地震による津波警報を1回経験しています。特にチリ地震による津波警報の際は、日曜日ということもあり教育委員会に11時間ほど待機しました。この翌朝の学校付近と長部漁港の様子を見て歩いたことや、後日気仙小の先生が録画した気仙川を上る津波の映像を見せていただけたことは、私に

とって「津波を侮ってはならない」という貴重な記憶となりました。あの3月11日、第一避難場所から見た川底が見えるほどの引き波はこれまでにない経験であり、地震の規模からも大きな津波が来るということを予想させるものでした。「近くの山へ今すぐ避難」ということを迷うことなく判断することができました。

その日は、最終的に二日市公民館に生徒職員全員で避難しましたが、引き取っていただいた生徒は僅かでした。保護者の方々も、引き取りたくても行く場所がないというのが現実でした。その晩、一人の青年が私のところに連れられてきました。

「家で待機していたら突然津波に襲われ、母親と共に流された。母親がここに避難していませんか。」とのことでした。よく見ると頭から足元まですぶ濡れです。母親を探すとともに、近隣の方々にお願ひして、その青年の着替えを準備し、しばらく2階の物置で休ませました。また、4人の方々から人工透析の要望が出されました。翌朝、幸い大阪ナンバーのパトカーが来て、その要望を伝えることができ、翌日、ヘリコプターで搬送されました。

地震から2日目の朝に避難所となった長部小へ移動し、避難者名簿

の作成や班づくり、教室の割当、教室毎の代表者を決め、幾らかほっとすることができました。移動したその日は、私たち教職員はコンクリート造りの特別教室に入りましたが、毛布もなく、段ボールを布団として3人で体を寄せ合って眠るよう努力しました。体の芯から寒くなり、一睡もできない状況でした。保護者に全員の生徒を返すことができましたのは、10日目であったと思います。ただ、一度生徒と会っても、職業柄仕事に戻っていく保護者もあり、そのような生徒は、地域の皆さんで見守っていくという暮らしぶりでした。

校舎は違えども、気仙中がそのまま存続するということは、私たち教職員にとっても生徒にとってもこの上ない喜びでした。生徒は、3台のスクールバスを利用しての登校となり、友といることで徐々に元気を取り戻してきたように思います。

4月、教室の壁面に掲げられた「気仙中で皆と一緒に勉強していきたい」と書いた両親を亡くした生徒の目標。震災一年後に、心のケアのために作文を書く機会をもちました。が、病気で欠席していた生徒が家族と避難する際、悲惨な状況を目の当たりにしていたことを、この作文の

中で初めて吐露することができました。心の傷を負った生徒はたくさんいますが、多くの方々の優しさご支援で力強く気仙中を羽ばたいていくことができました。

気仙川のすぐそばに立地する気仙町は、保育園、小学校、中学校の園児、児童、生徒には犠牲者が一人もおりませんでした。決して偶然そうなたとは、私は捉えておりません。幼い頃からの津波に対する行政、地域、家庭、学校がまさに一体となった教育の賜物と実感しています。機会があれば、震災を経験した方は、未来を生きていく子どもたちへ、ぜひご自身の経験や考えを語り繋いでいってほしいと願っています。教育が果たす役割は決して小さくはないと私は思っています。

最後に、「ONE LIFE」という言葉をも伝えていたいと思います。かけがえのない「一度きりの人生を大切に」それと同時に、「私たちすべてはひとつである」といえるような社会になるように。



震災遺構として残された気仙中学校

午年生まれの方々の夢



- ①今年の夢・希望
 - ②尊敬する人物
 - ③座右の銘
- 人選は各地区会に一任しました。

午年生まれ
昭和5年、昭和17年、昭和29年

長谷川 滋氏 (盛岡地区会)

- ① 健康で生活できることに感謝しながら、体力のあるうちに、いろいろなお菓子づくり挑戦し、欧州各国を旅したり、伝統的なスイーツを味わったりしたい。
- ② 父親、母親
- ③ 初志貫徹

佐々木カツ氏 (盛岡地区会)

- ① 健康を第一に!!何事にも考えや行動を実行したい。出来るか、どうか?
- ② ベアテ・シロタ・ゴードン
- ③ 日本女性の幸を願い、憲法草案の作成に携わった。

藤原智子

・映画「ベアテの贈りもの」の監督です。

- ③ この世の中にはいろいろな不幸がある。しかし、その不幸から、よきものを生み出そうとし、また生み出し得る人は賢い人である。

小川 愛子氏 (岩手地区会)

- ① 生あることに感謝し、花鳥風月を楽しみながら、自立した日常を

過ごすことを願っています。

- ② 明治生まれの亡き母二人

幾多の困難を乗り越えた強靱な精神力は私の鏡です。

- ③ 「人のお世話にならぬよう人のお世話するようそしてむくいをもとめぬよう」

後藤新平の自治三訣

工藤 哲男氏 (岩手地区会)

- ① 今年もうた好きの仲間と一緒に楽しく歌っていきたい。
- ② 故山本精一先生

遠野小学校2・3年の恩師 啄木が日本一の代用教員ならば、私は県一の代用教員になると、努力されたすがたは忘れな

- ③ 苦しみをなくして得られる貴重なものは、何一つない

ロマン・ローラン

大山 泰枝氏 (紫波地区会)

- ① 退職後に着物リメイクと演劇を始めた。今年は、あと10年現役でいるための趣味・仕事を もう一つ始める。
- ② 徳川光圀(故郷の偉人)
- ③ どつちに転んでも「しめた」

熊谷 勇夫氏 (花巻地区会)

- ① まだ行ったことのない東北を普通列車で一人旅すること。
- ② 中学時代の部活動顧問の先生。自分が教職の道に進むきっかけとなり、教職に就いた後も親身になってご指導くださいました。
- ③ やらぬ後悔よりやる後悔

菊池 福盛氏 (遠野地区会)

- ① 遠野ウオーキング協会の事務局

長として、「世代をつなぐウオーキングで、地域に笑顔と健康の輪を広げたい。」

- ② 一度決めたことは最後までやり遂げる人
- ③ 最大の名誉はけっして倒れないことではない

倒れるたびに起きあがることである(孔子)

西岡 健一氏 (和賀地区会)

- ① 孫達と身体を動かして遊べるよう健康・体力維持をめざし日々の軽運動に努めたい。
- ② いろいろな場面で助言いただいた諸先輩方
- ③ いつでも、どこでも出発点

及川 功一氏 (胆江地区会)

- ① 今年で年男は7回目。「午年」生まれは足が速いと聞いたが何故か私は…。速いと言えばサラブレッドだ。その走りの極意を見極め自分の今後の走りの参考にす。そう、私の夢は、初体験の競馬観戦である。
- ② 両親
- ③ all for one。 one for all。

佐藤 尚氏 (胆江地区会)

- ① スポ少活動や稽古を通し、子どもたちや仲間と接し心も体も健康維持に努める。
- ② 自分の肩書きや地位におごらず他人を敬い控えめな態度を取れる人
- ③ 大切なのは「何年生きたか」よりも「何をして生きたか」

千葉 和行氏 (一関西地区会)

- ① 勤務した学校、お世話になった

関係者を軸に興味の鳥類研究、投稿、自動車再生等加えて自分なりにまとめた。(非売品)

- ② ポール・ラングラン (生涯学習社会の提唱者)
- ③ 温 故 知 新

伊藤 一志氏 (一関東地区会)

- ① 少子高齢化に伴う人口減で、限界集落化しつつある自治区を、コミュニティ能力を上げ、活力のある以前のような自治区にしたい。
- ② 柔道の創始者で教育者でもある 嘉納治五郎
- ③ 遂げずばやまじ

伊藤 英子氏 (気仙地区会)

- ① 一日十笑(声に出して)、百吸(深呼吸)
- ② 千字(読む・書く)、万歩(体を動かす)
- ③ ×7割で、心穏やか体健やかに

大森 榮子氏 (宮古地区会)

- ① 健康維持に努め、毎日、テレビ体操、ウオーキング、家庭菜園などを。また、趣味活動(大正琴、オカリナ、書道)などに励む。
- ② 宮澤 賢治
- ③ 千里の道も一歩から

阿部 俊夫氏 (九戸地区会)

- ① 星空観察をしながらの天文教育の普及と地区会活動の充実に引き続き努める。さらに、ばら園作りや音楽鑑賞などを楽しむ。
- ② ガリレオ・ガリレイ
- ③ アルバート・アインシュタイン

会員の動静

祝 高齢者叙勲

前号に引き続き、令和7年10月以降に高齢者叙勲の栄に浴された方は次のとおりです。

皆様とともに心からお祝いし、お慶び申し上げます。

○瑞寶双光章 (10月1日付)

※ 該当者なし

○瑞寶双光章 (11月1日付)

(二戸地区会)

原 正 子氏 (88歳)

盛岡市開運橋通

○瑞寶双光章 (12月1日付)

※ 該当者なし

祝 令和7年秋の叙勲

令和7年秋の叙勲で、次の方々がその栄に浴されました。

皆様とともに、心からこのご慶事をお祝いし、お慶び申し上げます。

○瑞寶双光章 (九戸地区会)

宇 部 澄 男氏 (73歳)

久慈市天神堂

○瑞寶双光章 (盛岡地区会)

小 岩 和 彦氏 (71歳)

盛岡市上田堤

○瑞寶双光章 (胆江地区会)

千 田 勉氏 (70歳)

奥州市胆沢小山字南長檀

○瑞寶双光章 (盛岡地区会)

山 内 昭氏 (70歳)

盛岡市小鳥沢

○瑞寶双光章 (盛岡地区会)

吉 川 健 次氏 (79歳)

滝沢市菓子

祝 令和7年表彰状受賞

○全連退功労者表彰 (盛岡地区会)

木 村 幸 治氏 (84歳)

盛岡市緑が丘

○県文化スポーツ表彰・スポーツ分野

(盛岡地区会)

木 村 昂 史氏 (78歳)

盛岡市山岸

お詫びと訂正

60周年記念誌に誤りがありました。関係者の皆様にお詫び申し上げますとともに、次のように訂正いたします。

60周年記念誌 (30頁)

① 10行目 夜間も絶え間なく余震

に↓夜間も絶え間なく続く余震に

② 16行目 そういいう重圧が一度に押し

掛かって↓一度に押し掛かって

③ 18行目 そして終了式・卒業式

↓そして修了式

編集後記

新しい年を迎えるにあたり、岩手県教育委員会教育長佐藤一男様からお忙しい中「年頭の御挨拶」の玉稿を賜りました。また、盛岡地区会からは結成60周年記念第51回県研修・親睦会「盛岡大会」の様子を詳細に報告いただきました。「わたしの3・11」では紫波地区会越恵理子様からご寄稿いただきました。読み終えた時、これまでご寄稿いただいた方々と同様に胸が締め付けられる思いでした。「未来を生きていく子どもたちに語り繋いでいってほしい」「ONE LIFE」の言葉は、心から離れません。「午年」生まれの会員の方々からも「夢」をご寄稿いただきました。感謝の思いでいっぱいであります。

さて、今年の干支は「午」です。「十干(じっかん)」と「十二支」の組み合わせたものが干支のことですから詳細は「丙午(ひのえうま)」とのことですが、「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」年とされています。本会も、そのような1年にしたいものです。しかしながら、充実した活動の推進と同時に、本会にはより魅力ある活動の構築、会員数の確保、予算の効率的運用等課題も山積しています。このような時だからこそ、課題解決に向け、会員一人一人の英知を結集して本会の新たな一歩、確かな一歩を踏み出したいものです。

令和8年が皆様にとって佳き年となりますように。

岩手県公立学校退職校長会

郵便振替口座番号

02300017124952

第一面の本会報題字は

故白木龍竹氏の直筆による